

CN

CampusNOW

No.
87
2017.5.19

学校法人 総持学園

鶴見大学

大学院 歯学研究科 (博士課程) 歯学専攻
文学研究科 (博士前期・後期課程)
日本文学専攻・英米文学専攻・文化財学専攻
歯学部 歯学科
文学部 日本文学科・英語英米文学科・
文化財学科・ドキュメンテーション学科

鶴見大学短期大学部

保育科
歯科衛生科
専攻科 保育専攻・福祉専攻

鶴見大学附属中学校・高等学校

鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園

発行/鶴見大学

鶴見大学短期大学部

編集/総務課

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3

<http://www.tsurumi-u.ac.jp>

CONTENTS

座談会

大山新学長、就任

研究室探訪 「ひらめき☆ときめき サイエンス」特集

文学部ドキュメンテーション学科元木研究室 元木章博教授

COME ON, NEWFACE! 新入生歓迎オリエンテーション

就職EXPRESS 就職活動年間スケジュール

大山新学長、就任

～鶴見大学の将来展望を語る～



フレッシュな新入生を迎え、鶴見大学の新学期がスタートしました。大学・短期大学部のトップも変わり、総持学園理事で、東京医科歯科大学前学長の大山喬史先生が新学長に就任。キャンパスに新しい風が吹き始めています。

その一方で、少子化の影響によって大学進学年齢の18歳人口が減り続け、大学を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。そうした中で、鶴見大学を活力と魅力に満ちた大学に作り変え、さらなる発展をめざすには何が必要か。

大山新学長を囲み、前田伸子、二藤彰両副学長と加川順治文学部長、里村一人歯学部長、加藤保男短大部長に、鶴見大学の将来展望について語り合っていました。

コーディネーターは、前田副学長です。

前田 新学長に大山先生をお迎えし、新体制の下での大学運営がスタートしました。本日は鶴見大学の教育改革や将来展望について、大いにディスカッションをしていただきたいと思います。その前に、ひとつ大山先生から「学長就任の弁」をお願いします。

大山 私は歯学部が開設される前年の昭和44年から10年間、鶴見大学に在籍し、歯学部で教鞭をとりました。今回、38年ぶりに帰還したわけですが、この間に鶴見大学は様々な形で発展をとげてきた。何よりもまず、そのことをうれしく思います。

ただ、私が前に学長をつとめていた大学（東京医科歯科大学）とは、規模も学内環境も異なります。そうした中で、学長としてリーダーシップを発揮していくのは、とても大変なことであり、改めて責任の重さを痛感しています。それが今の偽らざる心境です。

教職員や学生と身近に接し フランクに意見交換を

前田 新学長として、どのような抱負をお持ちですか。

大山 学長に就任したばかりで、鶴見大学人

としては、やっとスタート地点に立ったところです。従って、今はまだ具体的に語れるほどの抱負を持っているわけではありません。

そこで、まずは教職員の皆さんから、鶴見大学の将来目標や現在の問題、課題などについて忌憚のない意見をうかがい、学内全体での理解が進むように、それらをつつとつ“見える化”していく。そうした作業に早急に取り組む必要があると考えています。

その上で、教学サイドの代表者として、大学をサポートしている学校法人（総持学園）に対して、いろいろと意見を申し上げていく。それが私に課せられた大きな役割だと思っています。

それと教職員や学生の皆さんとは、できる限り身近な関係を保ち、胸襟を開いて、フランクに接したい。そして、いろいろな問題について一緒に考えていきたいと思っています。

歯学部を発展させ、広く世界に貢献

前田 では、続いて各学部長さんから一言ずつ挨拶を。歯学部の里村先生からお願いします。

里村 歯学部長に就任して、ちょうど1年。

まだまだ分からないことも多く、苦勞しながら日々、職務に専念しています。

歯学部は、予算の規模や人員の数から見ても、鶴見大学の中ではかなり大きなウェイトを占めています。この歯学部を発展させていくことが私の使命であり、ひいてはそれが大学全体の発展につながっていく。さらにはそれが地域社会や日本、そして世界（人類）の発展への貢献につながっていくのではないかと、そんな遠大な夢を描いています。

前田 鶴見大学の歯学部が、広く世界とつながり、歯科医療を通して人類の平和・発展に貢献する。素晴らしいお考えですね。

次は文学部長の加川先生お願いします。この4月から新たに学部長に就かれたわけですが、“新任の弁”を聞かせて下さい。

「情報の目詰まり」が 全学の協働機能を阻害

加川 今、新学長の大山先生から、教職員や学生と近い所で、いろいろと議論し合い、ともに考え、行動しながら、大学の抱える問題や課題の解決に取り組みたい、とのお話がありました。が、「わが意を得たり」の思いで、と

でも心強く感じました。

と言うのも、私が見る限り、うちの大学はいろいろな所で「情報の目詰まり」が起きていて、どうにも学内の風通しが悪い。もっとも、こうした傾向は今に始まったことではなく、以前から“悪しき伝統”としてずっと続いてきたことですね。

前田 情報の目詰まりですか？ それは情報の流れが、あるレベルで止まってしまい、学内全体に行き届かないということですか。

加川 その通りです。各セクション、セクションで、情報の目詰まりが起きている。そのため大事な情報なのに、教職員間での共有化が阻害され、結果として大学全体の協働体制がうまく機能しない弊害が生じています。

私はこれではダメだと思うんです。大事な情報を、教職員も学生もみんなが共有して、一緒になって問題の解決に取り組んでいく。こうした体制づくりを急がねばなりません。

今回、私も学部長の要職に就いたわけですから、これを機に情報の目詰まりの悪弊を一掃し、鶴見大学を何とか風通しの良い大学に変えていきたい。微力ながら、そのために力を尽くしたいと考えています。

短期大学部の将来像をめぐり、白熱の論議

前田 ありがとうございます。続いて、短大部長の加藤先生お願いします。先生も、この4月からの新たに短大部長に就かれましたね。

加藤 はい。新任ですので、ひとつよろしくお願いします。

短期大学部では現在、これからの短大部はどう在るべきか。その将来像をめぐって、学部内でいろいろと検討を進めています。短期大学の目的の一つは「職業に必要な能力の育成」であり、高校生が短期大学に進学を選択



おおやま たかし
大山 喬史学長

する理由として4年制大学よりも短期に「資格取得」ができ、「就職に有利」ということが挙げられます。幸いにして短大部の2学科は、共に資格取得を目指すという目標がありますのでお互いに協働出来るところもあると思いますが、今までは各学科で独立して考えていました。

短大部長に就任した、これを機に新学長の大山先生のお考えのように短期大学部の教職員が一体となって垣根を越えて対話を心掛けて良い方向に導ければと思っています。さらに、大学と短期大学の枠を超えて協働することができればと思います。

また、現在不足している保育士、幼稚園教諭、歯科衛生士の資格を有しながら、出産・子育て等を機に離職した潜在的有資格者へのキャリアアップ支援につながる教育プログラムなど、学び直しの機会の提供も必要と考えます。

今後は新学長に就任された大山先生のご意見などもうかがいながら、短大の将来像について検討を重ねていきたいと思っています。

歯・文・短大各部の独立意識が強く、3つの大学が並立の印象

前田 ところで、二藤先生は伊藤前学長の時代に副学長になられて、主に教育改革を担当されていますよね。その関連で、最近短大部の将来計画などをめぐり、短大部の教職員とも積極的に話し合いをされていると聞いています。その件を含め、鶴見大学の教育改革はどの程度進んでいるのでしょうか。

二藤 教育改革の面で、私に課された宿題は大きく分けて二つあると思っています。一つは歯学部教育の改革。そして、もう一つが全

く性格の異なる学部・学科で構成されている本学を一つにまとめることです。

前田 後者の“まとめる”とは、どういうことですか。

二藤 本学の場合、同じキャンパス内に歯学部、文学部、短大部があるわけですが、それぞれ独立意識が強いと言うか、垣根が高過ぎて、学部の枠を超えた相互交流や連携が余り活発とは言えません。そのため、一つの大学というより、同じキャンパスに、独立した3つの大学が並立しているような印象がぬぐえません。

これを改め、学部間のヨコの連携を強めて、「鶴見大学・鶴見大学短期大学部」を一つにまとめること。それが私に与えられた宿題の一つなのです。しかし。残念ながら歯学部の改革を含め、二つの宿題にはまだ十分に答えられていないのが実情です。

ただ、そうした中であって、今は短大部の「将来計画委員会」の一員として、現状を抱えている問題などをめぐり、先生方と率直な意見交換ができています。私のような歯学部系の人間が、短大部の将来計画に首を突っ込み、議論に加わるようなことは、これまでの鶴見大学では考えられなかったことで、相当に画期的なことだと思っています。

前田 確かに、それは大きな前進ですよ。

“3大学並立”の特徴を、むしろ強みに

里村 今、まったく性格の異なる学部で構成された「3つの大学」との話がありましたが、本当にその通りだと思うんです。歯学部と文学部と短大部。この学部間には一見、何の脈絡もない。その意味では、鶴見大学は極めて特徴的というか、大変にユニークな大学です。しかも、大学の規模も小さい。

しかし、これらの特徴を弱みと見るか、強みと考えるかで、我々がめざす大学の方向性もだいぶ変わって来るはずです。そして私は、この特徴を他の大学にはない強みととらえ、そこから大学発展の道を探りたいと思っています。

例えば、歯学部の使命は、優秀な歯科医を養成して、社会に送り出すことです。しかし、今の大学の歯科医学教育は、国家試験合格という至上命題の下で、どうしても知識偏重に傾きがちです。つまり、歯科医としての人格を磨くことも大切なのに、どうしてもそれは二の次になってしまう。

しかし、本学には同じキャンパスの中に、人間の生き方などについて学ぶ文学部があります。そこで、文学部との連携を深めることで、今の歯学部には足りない人間教育を強化することが可能になるのではないかと。そのように考えると、文学部が存在することは、歯学



にし しのぶ あきら
二藤 彰副学長



まえだ のぶ こ
前田 伸子副学長

部にとって大きな強みであり、とても重要なことなのです。

不ぞろいな文学部の「学科」構成、その多様性が強みに

加川 今、文学部の存在をうちの大学の強みとして評価していただきましたが、よくよく考えると、文学部の「学科」構成自体がまったく不ぞろいなんですね。日本文学科や英語英米文学科のような純文学系の学科に混じって、ちょっと異質な文化財学科とドキュメンテーション学科がある。

でも、私はこのような不ぞろい、言葉を換えれば多様性こそが、弱みどころか、鶴見大学の強みであると思っています。

前田 ただ、一言いわせてもらえれば、文学部の場合、それぞれの学科の自治意識が強く、他者を寄せつけないところがあるように感じます。大学改革に向かって、全学が協働していこうという時に、その壁が問題になるのではありませんか。

加川 確かに、そうした面はありますね。これは改めないといけない、私も思います。

問題多い「国際交流」や「学長裁量経費」

前田 各学部長さんのお話を聞いて、大山先生はどんな感想を持たれましたか。学長として、何かご意見はありませんか。

大山 ちょっときついことを言わせてもらうと、鶴見大学の現状について、課題のようなことが幾つか語られてはいたのですが、そこからさらに一歩進めて、具体的な内容が何も出ていなかった。そこが大変残念に思います。

例えば、私が問題だと考えるものの一つに「国際交流」があります。各学部ごとにいろいろな国際交流事業が行われているわけですが、誰が、どんな目的で、いつ、どこへ留学して、何を学んで来たのか。大学のどの資料



さとむら かずひと
里村 一人 歯学部長

学部から、それぞれ審査員を選出し、厳正な審査の上で、助成の対象になる優秀な研究を決めています。

大山 でも、単に優秀な研究というだけではダメなので、それに加えて、鶴見大学の特徴づくりや発展に役立つような研究。そういった具体的な視点をもっと大事にしないとね。

学長の裁量経費については、大学のスタンスというか、関わり方がどうも稀薄な感じがする。これも今後、改善していく必要があります。

学部の枠を超え、全学的に本音で議論する場を作ろう！

前田 ほかに何か？

大山 さっき加川先生から「情報の目詰まり」により、全学での情報の共有化が阻害されているとの指摘がありましたが、大学改革、教育改革を進めていく上で、これは大変に由々しき問題であり、早急に改善を図らねばなりません。

そこで、改善法の一つとして私が考えているのは、一部の関係者だけが集まり、いわば“密室”状態の中で行う話し合いを、まずやめることです。それに代わり、大学の各部局から推薦された代表者が一堂に会して、大学が抱えている問題や課題について、徹底的に議論する。そのような方法であれば、議論が広くオープンになり、一部の人が情報が独占するようなことは防げるでしょう。

例えば、文部科学省の「大学改革実行プラン」に沿って、現在、うちの大学が取り組んでいる「教育改革」についても、単なる文科省対策ということではなく、本質的な教育に関する課題について、各学部から代表者を送り込んでもらって、忌憚のない意見をぶつけ合う。恐らく学部の枠を超え、みんなが同じ土俵の上で教育について議論し合うなんてことは、これまでのうちの大学には例がなかつ

を見ても、そういった記録が、どこにも載っていないんです。

今後の国際交流の進め方もあらためて考えていきたいと思っています。

それともう一つは、「学長の裁量経費」です。教職員の研究などに対して、学長の裁量経費の中から助成金が出ているわけですが、誰がどんな基準で、助成対象となる研究を選んでいるのか。その辺りのことがよく分かりません。

前田 それについては、歯学部、文学部、短大部の各



かとう やすお
加藤 保男 短大部長

たことで、こうした体制づくりを急ぐ必要があると思います。

加川 学内のみんなが本音で議論し合う場。とてもいいことだと思いますし、先生、ぜひ作りましょうよ。

前田 全学的な議論の場を作ることには、私も大賛成です。

情報の共有化へ、全学合同の教授会開催を

二藤 今の学長の話もそうですが、これまでの皆さんの意見を総合すると、大学改革、教育改革を進める上での一番のキーワードは、いかにして「情報の共有化」を図るか、だと思うんです。

そこで、一つ提案なんです、全学合同の教授会を開催してみたらいかがでしょうか。各学部ごとではなく、全学の教授が一堂に会する。そして、本学がいま抱えている課題について、学部・学科の枠を超えて、話し合うわけです。毎回の開催は無理でも、例えば入試の変更がある時など、重要なポイント、

ポイントで合同教授会を開いてもいい。いずれにしても、情報の共有化の実現のためには、ぜひ合同教授会をやるべきだ、と私はずっと考えてきました。

加川 ただ、合同教授会となると教授の数も多い。全員が入れる会場を、学内で確保できますかね。

二藤 その点は大丈夫。うちの大学の規模なら、十分に全教授を収容し切れます。

前田 もし会場のスペースが狭ければ、机やイスの配置を会議形式ではなく、学校形式にしてもいいですね。

大山 話は変わりますが、鶴見大学を運営する学校法

人総持学園が、7年後には創設100周年を迎えます。それに向けて、「100周年実行委員会」のようなものは既に出来ているのですか。

前田 はい、一応出ています。二藤先生と私、それに執行理事の方が中心になり、先ほどの大学改革プランの4項目について、それぞれの担当者から「今、何が問題なのか」「これから何をしたいのか」など、聞き取りを進めています。そうした中で、既に問題点も幾つか上がってきています。

大山 でも、問題点は上がっていても、それを知っているのは大学の上層部だけ。そういうことではダメなんですよ。繰り返しになりますが、現場の隅々まで必要な情報をキチンと届けて、全学で情報の共有化を図らなければいけない。100周年に向けて、鶴見大学を何とかそういう風通しの良い大学に作り変えていかないとね。そのために、これから皆で力を合わせて頑張りましょう。

前田 結論が出たようですし、ではこれで座談会を終わります。ありがとうございました。



かがわ じゅんじ
加川 順治 文学部長

『ひらめき☆ときめきサイエンス』は、小学5・6年生、中学生、高校生の皆さんが大学や研究機関で「科研費」により行われている最先端の研究成果に直に触れ、科学の面白さを感じるプログラムです。8月5日、鶴見大学でも小学5・6年生を対象に実施されます。今回は、このプログラムを実施する文学部ドキュメンテーション学科元木研究室をご紹介します。



文学部ドキュメンテーション学科元木研究室

元木章博教授

どんな人にも同じように情報が伝わるように 情報保障を科学する



図書館司書のための点字学習支援システム

文部科学省やその外郭団体の独立行政法人日本学術振興会が、「学術研究」を格段に発展させることを目的に、人文、社会、自然科学と全ての分野を含む独創的・先端的な学術研究を対象に、研究費を助成する科学研究費助成事業（科研費）という制度があります。毎年、多くの研究者が自身の自由な発想に基づく研究を進展させるために申請し、それぞれの分野の専門家によって申請内容が審査されます。限られた予算の中で採択される研究は狭き門。文学部ドキュメンテーション学科、元木章博教授の研究はその一つです。

教育情報学、福祉情報工学、図書館情報学分野を研究テーマにする元木研究室。中でも、視覚や聴覚などに障害を持つ人が健常者と同じ情報を共有できるようにする「情報保障」は、その大きな柱の一つです。

「心のバリアフリーについては昔から言われていますが、昨年の障害者差別解消法施行や、2020年のパラリンピックの開催に向けて、さらにバリアフリーの考えが広がりを見せて

きました。対面朗読サービス、点字図書や大活字本の貸し出しなど、公共図書館において視覚障害者に対するサービスが実施されつつある中、図書館司書にも点字の知識やスキルが必要になってきました」と元木教授。

今年度、科研費に採択された研究テーマは「学習者の正誤情報を「見える化」する点字学習支援システム」で、2013年度に採択された“3DCGを活用した点字学習支援システムの開発と評価”に引き続き実施されるものです。これらの研究テーマの目的の一つは、視覚障害者の図書館利用を支援するために必要な点字を、司書や司書になろうとしている人が効果的に学ぶための学習支援システムを開発することです。

多彩な視点から情報保障を実践

「現在、開発している点字学習支援システム『点字といっしょ!』は、視覚障害者が使うためのものではありません。しかし、公共図書館の司書を目指す人には、このシステムを利用しながら勉強し、点字を理解して、彼



らをサポートして欲しいと考えています。一人でも多くの学生が興味を持ってくれば、様々な障害者サービスが広く浸透します。図書館司書を目指して鶴見大学に入学してくる学生には点字の学習を奨めます。」

元木研究室や、元木教授が顧問を務める鶴見大学課外活動公認団体の情報バリアフリー推進会では、その他にも視覚障害者のための「ことばの道案内」の作成・公開、聴覚障害者や高齢者のためのパソコンテイクを入学式や卒業式で実施するなど、色々と活動しています。更に一人でも多くの人々が情報を共有し、活用できるように、研究・実践活動を進めています。

ひらめき☆ときめき サイエンス

点字の秘密を探る! ~自分の名前の3DCG点字を、コンピュータで作ってみよう~



開催日 8月5日(土) 9:40~16:20

会場 鶴見大学
(1号館1階ロビー集合)

対象 小学5・6年生 参加費無料

募集人数 20名(先着順)

持ち物 筆記用具、ハサミ、飲み物、
昼食(食品アレルギーをお持ちの方のみ)

お問い合わせ・お申込み

鶴見大学教育研究支援課

ひらめき☆ときめきサイエンス担当

TEL 045 (580) 8318・8319

元木研究室での研究成果に基づいた点字の3DCG作成や、色々な人に情報が伝わる名刺作りをする教室です。

点字は、凸点を左から右に読みます。点字を利用している視覚障害者は、主に指先で点に触れて読んでいきます。これを「触読」と言います。そして点字を書く場合、厚紙の裏側(凹面)で、点筆と点字器を使って、右から左へ点字を書きます(打ちます)。この表裏の関係のことを「鏡像関係」と言います。もちろん、実際の厚紙に点字を書き(打ち)、反転させてから読むことは必要です。しかし、点字を学ぼうとした学習者が、いつでも点字マスター!?!に、採点してもらえる訳ではありません。そこで、研究開発されているのが、元木教授

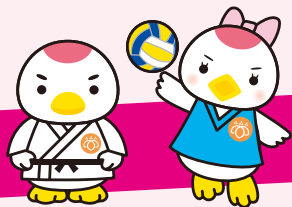
の3DCGを活用した点字学習支援システム「点字といっしょ!」です。このシステムでは、学習者が入力した解答の採点機能はもちろん、鏡像関係を学習者が回転したり止めたりしながら確認することが出来る点字3DCGの表示が、いつでも出来ます。

教室ではまず、「『見えない』とはどういうことか」「盲人の字の歴史、点字の仕組み」など、元木教授の講義で視覚障害や点字の概要について学んだ後、ワークショップに移ります。

ワークショップでは、弱視や視野狭窄などの視覚障害者にも見やすい「白黒反転名刺」をパソコンで作ります。さらに、透明シールに点字で自分の名前などを書き(打ち)、それを白黒反転した名刺

に貼って「点字名刺」を作り、元木教授と名刺交換をします。その後、「自分の名前の点字3DCGをパソコンで作ろう!」では、簡単なプログラムを書きながら、点字3DCGを作成し、鏡像関係の理解を深めます。ここで作った自分の名前の3DCGデータはUSBメモリに入れて、持ち帰ることが出来ます。

小学4年生の国語の教科書に点字や視覚障害に関する話が出てくると語る元木教授。「障害やバリアフリーについて関心のある小学生や、図書館や司書の仕事について関心のある小学生にも興味深い内容です。ぜひ、参加してください。鶴見大学で、お待ちしております。」



COME ON, NEWFACE! 新入生歓迎オリエンテーション

一人でも多くの学生が課外活動に参加して、充実した学生生活を過ごせるように

新入生が充実した学生生活を過ごせるように、クラブ、サークルなどの課外活動を紹介する「新入生歓迎オリエンテーション」が4月8日（土）に行われました。「どんな課外活動があるか」「自分の探しているクラブがあるか」。期待に胸を膨らませた多くの新入生が参加しました。

5号館5-101・5-102教室で行われるオリエンテーションと1号館の教室に設けられた各団体の相談ブース。オリエンテーションは学生の入部を期待する課外活動公認団体連合会や各クラブからのボランティアスタッフの手によって運営されています。

あいにくの雨にも関わらず、9時から始まるオリエンテーションの会場には早くから新入生が集まります。冒頭、「今日一日、いい出会いが生まれることを期待しています」との、二藤彰副学長のあいさつ。「今でしかできないこと、クラブ活動を通して充実した学生生活を送ってほしい」と早川徹全学学生委員長からメッセージが送られ、続いて、課外活動公認団体連合会会長のあいさつ、各団体の紹介に移ります。各団体は与えられた持ち時間、2分間を目安に活動状況や目標を発表します。情報バリアフリー推進会、少林寺拳法部、日本拳法部、自然愛好会、吹奏楽部、手話サークルJSL、競技ダンス部、軽音楽部、ポップス研究会など、パフォー

マンスで新入生を引きつける団体もあります。

各公認団体の紹介時から入退場自由であるため、関心のある団体を絞り込んでいる学生は早くから各団体のブースに回り、そのために各ブースの混雑もなく、移動もスムーズでした。中にはブースでの説明後に、オリエンテーションに戻り、紹介やパフォーマンスを見る学生もいました。

「クラブやサークルに入ると年齢や学部学科を越えて、いろいろな人との関わりが持てます。先輩のアドバイスを参考にして時間割を組んだり、先輩を通じて就職や社会のこと、社会

に出る時に人とどうやって関わったらいかなどを学べます。私は将来、学芸員になりたいので、仕事でも文章を書くことが求められます。文芸部の活動で文章を通じて人を見られるようになり、文章を作るスキルも上がりました。大学生活4年間を通じて得られるものを大切にしたいと考えています」と語る課外活動公認団体連合会会長で文芸部の田邊弘毅さん（文化財学科3年）。現在、鶴見大学の学生のクラブ、サークルの加入率は約5割。この日の先輩の声が届いて、一人でも多くの学生が加入することが期待されます。



開会前から新入生の熱気に包まれる会場



揃いのユニホームと部旗でチームワークを演出するゴルフ部



作品でアピールする美術部と、カメラに見立てたかぶり物が印象的な映画研究会



ヨット部をはじめ、陸上競技部、弓道部、ラグビー部は映像を使用



吹奏楽部の奏でるメロディに癒される新入生



最後は軽音楽部、ポップス研究会の迫力ライブ

課外活動のことについては学生支援センターへ！

新入生歓迎オリエンテーションに参加できなかった新入生、これから課外活動に入ることを検討している2年生以上の在学生、課外活動のことをもっと知りたい方は学生支援センターに相談してください。



1号館1階学生支援センター

参加団体一覧

情報バリアフリー推進会、陸上競技部、バスケットボール部、卓球部、文芸部、弓道部、文学部硬式野球部、美術部、バレーボール部、演劇部、歯学部サッカー部、ゴルフ部、ESS、硬式庭球部、写真部、スキー部、生物部、軟式野球部、剣道部、将棋同好会、フットサル部、管弦楽団、鶴見シューティングクラブ、漫画研究会、図書館研究会、考古学研究会、基礎体力増進会、天文部、フィットネス部、コンピュータ部、少林寺拳法部、映画研究会、日本拳法部、国際対口腔がんボランティア協力隊、だんすぶ、地域貢献ボランティアサークル、歯学部バドミントン部、ヨット部、自然愛好会、吹奏楽部、手話サークルJSL、競技ダンス部、ラグビー部、アパレル同好会、文学部バドミントン部、JAZZ研究会、歯学部硬式野球部、軽音楽部、ポップス研究会（発表順）



就職 EXPRESS



就職活動年間スケジュール

※下記スケジュールの日程は、変更になることがあります。

文学部

1・2年生

- 4月 ●年度始めオリエンテーション
- キャリアガイダンス

3年生

- 4月 ●年度始めオリエンテーション ●教員採用試験説明会
- 5月 ●就職ガイダンス① ●司書就職対策講座
- 教員採用模擬試験
- 6月 ●SPI対策講座① ●教員採用試験対策講座
- 7月 ●保護者向け就職説明会
- 9月 ●就職ガイダンス②
- SPI対策講座②
- 10月 ●企業就職特別講座
- 11月 ●就活筆記試験対策講座(有料・11～12月)
- 内定者による就職活動体験報告会
- 面接対策講座 ●就職活動履歴書写真撮影
- SPI対策講座③ ●就活スーツ着こなし講座
- 就職ガイダンス③(履歴書・エントリーシートの書き方)
- 進路(就職)登録カード提出
- 12月 ●業界職種研究講座 ●保護者向け就職説明会
- 2018 ●公務員試験対策講座(有料・1～3月)
- 1月 ●企業人事担当者による集団模擬面接
- 就職ガイダンス④
- 2月 ●特別ガイダンス
- 3月 ●第1回学内合同企業説明会

4年生

- 4月 ●年度始めオリエンテーション
- 5月 ●第2回学内合同企業説明会
- 7月 ●第3回学内合同企業説明会
- 9月 ●第4回学内合同企業説明会
- 10月 ●第5回学内合同企業説明会

短期大学部

保育科

1年生

- 4月 ●年度始めオリエンテーション
- 10月 ●就職ガイダンス①
- 進路(就職)希望調査①
- 12月 ●就職ガイダンス②(就職内定報告会)
- 保育士就職模擬試験
- 短大用就職模擬試験(一般常識テスト・作文)

2年生

- 4月 ●年度始めオリエンテーション
- 企業就職者向けガイダンス
- 就活スーツ着こなし講座
- 5月 ●就職ガイダンス③
- 保育士就職模擬試験・幼稚園教諭専門試験
- 保育士作文添削
- 就職活動履歴書写真撮影
- 公務員試験受験対策講座①
- 6月 ●就職ガイダンス④
- 7月 ●就職活動対策講座
- 進路(就職)希望調査②
- 公務員試験受験対策講座②
- 8月 ●履歴書書き方講座
- 個人面談・履歴書個別指導開始
- 9月 ●就職ガイダンス⑤(最終回)
- 進路(就職)希望調査③(最終)
- 12月 ●内定者ガイダンス

歯科衛生科

1・2年生

- 4月 ●年度始めオリエンテーション
- 一般常識テスト模擬試験①
- 就職作文添削①
- 5月 ●就活スーツ着こなし講座(2年生)
- 6月 ●一般常識テスト模擬試験②
- 公務員試験対策講座
- 就職作文添削②

3年生

- 4月 ●年度始めオリエンテーション
- 一般常識テスト模擬試験①
- 就職作文添削①
- 「人生と職業」(授業)
- 5月 ●「人生と職業」(授業)
- 就活スーツ着こなし講座
- 各種模擬試験開始
- 6月 ●「人生と職業」(授業)
- 就活スーツ着こなし講座
- 7月 ●「人生と職業」(授業)
- 9月 ●就職活動用及び国家試験履歴書写真撮影
- 10月 ●公務員試験対策講座
- 就職ガイダンス
- 履歴書の書き方講座
- 求人票公開・就職活動開始
- 就職面接対策マナー講座

※3年生開講の「人生と職業」はキャリア・就職支援の教科で必修科目です。

※面接・グループディスカッションのレッスンはキャリア支援課で随時受付(予約制)しています。

4年生の就職活動はあきらめず、ねばり強く！

キャリア支援課は皆さんを全力でサポートします。

最新の求人情報の提供や、内定を勝ち取るためのアドバイスをします。積極的にキャリア支援課を活用してください。また、採用試験を受けた方は、その結果を必ずキャリア支援課へ報告してください。



キャリアアドバイザーが相談に応じます！

キャリア支援課にはキャリアアドバイザーを配置しており、就職相談はもちろん、将来の「なりたい自分」について一緒に考えます。早い時期から「なりたい自分」を見つけることは学生生活や就職活動をより有意義なものにします。学年は問いませんので、ぜひ相談に来てください。皆さんの進路・就職を全力で応援します！

3年生が今やるべき就職活動の準備

就職活動は早くからスタートを

「なぜ就職するのか？」就職したい理由や就職に対する考えを、一度整理しておきましょう。

内定のカギを握る就職活動のポイントを紹介します。

●キャリア支援課とコミュニケーションをとろう

キャリア支援課を積極的に活用することで、志望業界などの情報や、各種求人情報を得ることができ、就職活動を有利にすすめることができます。もちろん、家族とのコミュニケーションも忘れずに！

●必ず掲示板で確認しよう！

掲示板(1号館1階)には就職ガイダンスなどの情報が掲示してあります。見落としのないようにしっかり確認しましょう。

●ガイダンスや就職特別講座には必ず出席しよう

外部講師や内定を獲得した先輩から、就職状況や就活体験談などを聞けるチャンス。就職への意識高揚と準備のために、必ず出席しましょう。

●夏休みを有意義に使おう

インターシップや夏休みにしかできない旅行・ボランティア活動など、積極的に取り組みましょう。自分を見つめ直す機会となり、自身の成長につながるだけでなく、面接試験時のアピールポイントにもなります。



大学からのお知らせ

保健センターより

学生定期健康診断未受診の学生へ

定期健康診断を受診していない学生は、必ず保健センターへ申し出てください。

卒煙(禁煙)教室について

保健センターでは、歯学部附属病院内科卒煙外来と連携し、卒煙教室を開催しています。たばこをやめたい学生には無料で禁煙パッチを配布しますので、是非参加してください。たばこの煙に含まれる有害物質である一酸化炭素量の測定もできますので利用してください。

健康・メンタル相談について

医師、看護師、臨床心理士が健康・メンタル相談に応じえています。気軽に利用してください。

父母会総会・教育懇談会等のお知らせ

今年度の父母会総会は、下記の日程で開催いたします。開催の御案内は、別途往復葉書にて郵送いたしますので、出席の有無を返信用葉書にて6月16日までに御返送ください。

日 時: 7月1日(土)午後1時より

場 所: 本学記念館地下2階記念ホール

議 題: 平成28年度決算報告

平成29年度予算審議

並びに役員改選等

※父母会総会終了後は、各学科に分かれて教員との教育懇談会・個人面談・歯学部鶴真会総会等の諸行事を開催いたします。

なお、文学部・短期大学部の保護者の方を対象として、当日の午後12時15分より就職説明会を開催し、教育懇談会終了後には、個別就職相談会を開催いたします。

精霊祭のお知らせ

来る7月7日(金)午前11時から、精霊祭が大本山總持寺大祖堂で行われます。この精霊祭では学園関係物故者の御霊のご冥福を祈り、例年、多くのご遺族、教職員及び学生が参列し、焼香を行います。本学発展のためにご尽力された方々への哀悼の意を表すために、ご参列ください。

鶴見大学仏教文化研究所(主催)

平成29年度 鶴見大学仏教文化研究所 公開シンポジウム

「仏教に学ぶ保育の原点」

日 時: 平成29年6月10日(土)13:30～16:30

会 場: 鶴見大学会館地下1階メインホール

①基調講演

佐藤 達全(仏教文化研究所・兼任研究員)

「仏教に学ぶ保育の原点」

②講 演

山崎 和子(鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園・園長)

「現場における仏教保育」

山室 吉孝(鶴見大学短期大学部・教授)

「乳幼児期における道德教育」

橋本 弘道(鶴見大学短期大学部・准教授)

「保育者論としての仏教保育」

仙田 考(鶴見大学短期大学部・講師)

「仏教・保育・子どもの環境」

教育振興支援寄附金募集

鶴見大学は、建学の精神「大覚円成 報恩行持」にもとづき、宗教的信念のある有為の人材を育成する教育をおこなっています。「鶴見大学教育振興支援寄附金」は、学生が主体的に自らの能力を発揮して地域社会の発展に貢献し、感謝や奉仕の心を学ぶ教育活動に供することを目的とし、募集させていただいております。この趣旨にご賛同いただき、多くの皆様に特段のご支援を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

◎お問い合わせ先

鶴見大学総務部総務課

電話 045(574)8608 FAX 045(574)8688

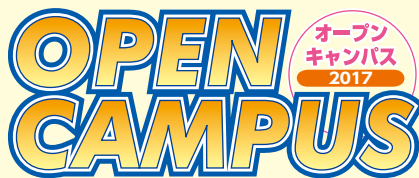
学内ルールを守りましょう



携帯電話
マナーを
守りましょう



喫煙は
決められた
場所です



全学科同時開催・申込不要・入退場自由

受験生と保護者の皆様を対象とした「オープンキャンパス」を開催いたします。皆様お誘い合わせのうえ、どうぞ奮ってご参加ください!



※7月23日より、平成30年度募集要項(願書)を無料配布いたします。また、大学案内パンフレット・平成29年度入試問題(縮刷版)も無料配布いたします。

本学のオープンキャンパスは、**毎回実施プログラムとスケジュールが異なります!**

来るたびに新しい発見を得られる鶴見大学・鶴見大学短期大学部のオープンキャンパス。
プログラムの詳細は、随時ホームページにアップします!

5月28日(日) 13:00～16:00 (15:00受付終了)

6月18日(日) 13:00～16:00 (15:00受付終了)

7月23日(日) 10:00～15:00 (14:00受付終了)

8月 6日(日) 10:00～15:00 (14:00受付終了)

8月26日(土) 10:00～15:00 (14:00受付終了)

9月10日(日) 13:00～16:00 (15:00受付終了)

歯学部一日体験入学 要申込

7月27日(木) 8月26日(土)

8月26日は、オープンキャンパスと同時開催となります。歯学部ご希望の方は「歯学部一日体験入学」への参加となりますので、事前の申込が必要です。

- 学科紹介・入試説明
- 短期大学部AO入試説明会
短期大学部AO入試の受験を希望する方は、当説明会への参加が必要です。
- 模擬授業 ● 個別相談
- キャンパスツアー
- 学食体験(7月・8月限定)
- 女子学生寮見学ツアー(7月・8月限定) など

実
施
内
容

横 浜



鶴見大学
鶴見大学短期大学部

Tsurumi University Tsurumi Junior College

ホームページURL <http://www.tsurumi-u.ac.jp>

携帯用サイトURL <http://i.tsurumi-u.ac.jp>



各種お問い合わせ先

● 成績・各種届出・学生生活・学納金について

● 奨学金について

● 進路(就職)について

● 入試について

● 健康に関すること・健康診断について

● 歯学部附属病院に関するお問い合わせ

● 広報について

文学部教学課 ☎045-580-8212

短期大学部教学課 ☎045-580-8215

歯学部教学課 ☎045-580-8203

学生支援センター ☎045-580-8217

キャリア支援課 ☎045-580-8225

入試課 ☎045-580-8219

保健センター ☎045-580-8283

初診科 ☎045-580-8503

総務課 ☎045-580-8540

初診科 ☎045-580-8540

総務課 ☎045-574-8627